

アフガニスタンおよび パキスタンの 治安情勢分析

2009年3月21日

日本安全保障貿易学会第8回研究大会

大阪大学世界言語研究センター

萬宮 健策

パキスタンが抱える問題

- ◎ 「テロリストの隠れ家」という認識
- ◎ ターリバーンをめぐる問題
- ◎ 対外関係
(アフガニスタン、インド、アメリカ)
- ◎ 核拡散
- ◎ 不安定な国内情勢

テロリストの隠れ家なのか？

- ◎ 連邦直轄部族地域(FATA)では、パキスタン政府の影響力が限定的
- ◎ 武装勢力と軍情報部(ISI)との関係
- ◎ アメリカによる取り締まり圧力との板挟み

- ◎ パキスタン人と、外国人
- ◎ 長老の言うことを聞かない若年層の台頭

新生ターリバーン

- ◎ 1994年出現時のターリバーンと、現在活動中のターリバーンの性格の違い
- ◎ ターリバーンとは誰を指すのか？

- ◎ ウマル師を頂点とする組織構造の変化
- ◎ パシュトゥーン人以外の勢力の台頭

核をめぐる問題

- ◎ インドへの対抗措置として、1998年5月に実施（計6回）
- ◎ A.Q.ハーン博士を中心とした研究体制
- ◎ 軍部主導。個人による拡散は不可能
- ◎ 北朝鮮のミサイルとのバーター取引

- ◎ 「日本も核を保有していれば、アメリカは原爆を落とさなかっただろうに」

不安定な国内情勢

- ◎ 迷走するザルダリー体制
- ◎ パキスタン人民党(PPP)とパキスタン・ムスリム連盟ナワーズ派(PML-N)の確執
- ◎ アメリカなど外国支援に頼らざるを得ない不安定な経済状況と、富の偏り
- ◎ 多民族多言語国家の宿命？指導者不在

アフガニスタンが抱える問題

- ◎ 好転しない治安
- ◎ 麻薬問題
- ◎ 8月に実施予定の大統領選挙の行方
- ◎ 対外関係（アメリカ、パキスタン）

好転しない治安

- ◎ 「被害者である」という政府の立場
- ◎ 指導者不在：誰が大統領でも変わらないというあきらめの感情
- ◎ なくなならない汚職、カルザイ一政権に対する不信感
- ◎ 外国勢力の完全撤退を要求するターリバーンと、外国勢力に頼らざるを得ない現状の間のジレンマ

麻薬問題

- ◎ 手っ取り早い現金収入源
- ◎ 武装勢力の活動資金

- ◎ 灌漑設備破壊による農業への大きな影響
- ◎ 換金作物が普及しにくい（安価な援助物資の普及などの影響も）

対外関係

- ◎ 内陸国である（カラチを經由する經由地貿易頼み (Afghan Transit Trade: ATA)）
- ◎ 伸びない税収（外国支援頼みの経済）
- ◎ アメリカの後押しにより成立したカルザイー政権（国内政治基盤を持たないカルザイー大統領）
- ◎ パキスタンに対する不信・不満

何が問題か？何ができるか？

- ◎ 強力な指導者の不在
- ◎ 武装勢力に対する外国勢力の影響、支援
- ◎ 地政学的に、国際社会に翻弄される（されやすい）位置
- ◎ 「エネルギー」の観点から看過できない
- ◎ 継続的な支援、長期的な展望が必要
- ◎ 良好な対日感情と、反米（政府）感情